

1. 授業事例

Mr. Nathan Schwartz ; “Colonial Regions DBQ” の授業記録

(2013年9月10日, Walter Johnson High School, 第10学年, 15~16歳)

Schwartz 先生：さて、皆さんは8つのグループに分かれて座っていますね。

それでは、昨日の学習を思い出しましょう。私たちは、植民地時代のアメリカについて話し合っています。今日は、労働システムについてさらに話し合ったり、資料文書にもとづいて比較を行ったりします。

その前に、いくつか事務的なことを済ませてしまいましょう。今晚、テキストの96番まで読んでもらいます。その後3日間は、宿題はありません。次のリーディングの宿題は金曜日に出します。金曜日です。みんながもっと読みたいのに、がっかりなのはわかります。でも、次の2日間はこれについてテキストを読まないでほしいのです。

私たちは、これまで2日もかけて準備してきました。そこで、明日の授業の終わりに2~3の小テストを行います。それにどう備えるかについてはわかっていますよね。私が何度も話してきた要領で、小テストの勉強を今晚やってください。そして、水曜や木曜は読むものを片付けてください。それが終わるまでは、先に進まないで大丈夫です。質問は？ はい、結構。

さて、今日は資料文書を使います。本来2日ぐらいかかる作業ですが、そのプロセスの短縮化を図りましょう。みんな、表と資料文書を持っていますか？ いいでしょう。では、資料文書を表のすぐ隣に置いてください。ここでは、資料文書の活用の仕方を全員が理解できるように、ゆっくりと進めましょうね。

さて、資料一式を手にしてこの時代について文章を書く作業の実際は、**スライド1** (後掲) の通りです。①まず初めに問いを読んで、②その内容について意見を出し合い、③それに関連する資料文書を読みます。この場合、1人の人が1種類の資料文書だけを読みます。そして次に、その内容をほかの人と共有します。④その資料文書が、これまで2日間話し合ってきたこととどう関連しているかを把握します。いいですか？ ⑤それから、問いに対する意見を出し、最終的に、⑥皆さんの意見の裏づけになるような形に資料文書を分類します。作業5と6を入れ替えられそうならそのように進め、その結果について話し合っても構いません。5と6は大勢で行うものではありません。これは各人が、頭の中で行います。おそらく今日と明日の放課後、木曜日に文章を書く前に。作業1から4は今日やります。私たちはこの作業で、何段階もの多くのことをやろうとしています。それは、皆さんが資料に基づいて問いに正しく答えるために必要なことなのです。

では、まず問いを読みます。資料の一番上に問いがありますね。初めて取り組む作業なので、ゆっくり進めたいと思います。こう書いてあります。「ニューイングランドとチェサピーク地域には、どちらも主として英国からの移住者が住み着きましたが、1700年までに…」1700年は、君たちに行ってほしいと思う遠い昔です。「明らかに異なる二つの社会へと変貌しました」。そして、大文字で「この発展の違いはなぜ起きたのでしょうか？」とあります。これが問いです。なぜ違っていったのでしょうか？これが、君たちが答えなければならないことです。

じゃあ、さっそく調べましょう。これを見てください。ステップ1。

さて、内容について意見を出し合いたいと思いますので、表を見てください。ニューイングランド植民地とチェサピークを比較しています。これまで数日間これについて話してきましたので、もう全部、頭の中かノートどこかに収まっていますね。各グループに5分あげますから、それについて吟味をしてください。なぜならば、実際に文章を書く前には、問いを読んでからその内容について吟味しますよね。それがみんなに踏んでもらいたいステップです。この作業をゆっくり進めてほしいのです。今回は4人で行います。お互いの考え方を比較して検討できるので、とてもいいのです。

話し合うための枠組みを用意してあります。ニューイングランド植民地とチェサピーク。①なぜ彼らは移住したのか、②そこにはどんな宗教があって、それはその地域にどんな影響を及ぼしたか、③それぞれの地域にはどんな人たちが来たのか、④統治機関はどのようなだったか、どんな植民地としての問題があったと思われるか、誰もが互いに尊重し合っていたか、仲良く暮らしていたか、について話し合ってください。

やがて、ニューイングランドとチェサピークは異なる地域になっていきます。4人の間で、こういった疑問それぞれについて何か意見が出ると思いますが、もし出ない場合は手を上げてください。私は教室内を巡回しているので、背後の事情を確かめて明らかにしていきたいと思います。今やることはそれだけです。何も読む必要

はありません。資料も何もありません。背景情報だけです。5分でやってください。 始め！

《8:14》

【グループでの話し合い（30秒程度）】

Schwartz先生：はい、こっちを向いて。あまり意見が出なかったグループもあるようだね。それはかまいません。この表のどこかについて、何か聞きたいことはありますか？ それともただ、「よくわかりません。これで合ってるのか、不十分なのか教えてほしいと思います」ですか？ はい、どうぞ。

生徒（女子）：あの、正しくは何か覚えていませんが、どこかの国の誰かで、宗教に関わる…みたいな何かがあります。

Schwartz先生：そうだねえ、あなたがどこに立脚するのかによりますね。私たちがいまやろうとしているのは、考察することです。あちこちのグループで聞かれた議論ですが、私たちは典型的なチェサピーク、典型的なニューイングランド、みたいなものを探しています。そして、チェサピークの典型がバージニアだとするならば、バージニアとその関連事項に目を向けます。バージニアの場合でなければ、ニューイングランドの典型はマサチューセッツ湾だったりします。だから、「いや、メリーランドには宗教的にカトリックの勢力が及んでいますよ」などと言う人もいますが、私はそういった例を無視します。それは、私たちの目的は、資料文書を活用して意見を出すための入門的学習としてこれを行うことだからです。少しわかりにくいかも知れませんが、当面思い浮かんだ説明です。いいですか？ はい、どうぞ。

生徒（女子）：ニューイングランドには清教徒が入植しましたが、チェサピークに移住したのは誰ですか？

Schwartz先生：誰か彼女に答えられる人は？ どんな人がチェサピークに住み着き、どんな宗教だったかな？

生徒（男子）：とても貧しいプロテスタントです。

Schwartz先生：多くはプロテスタントで、英国国教会の一員であることが多かったです。しかし、彼らは必ずしも熱心な信者ではなかったようです。我々の同胞は清教徒で、宗教的に極めて積極的ですが、素晴らしい目的をもっていますよね。チェサピークの人の目的は何だろう？（生徒：お金。）そう、お金に関わること。それが彼らの関心事です。彼らは仕事を求めました。他に何か大事な質問はあるかな？

生徒（女子）：チェサピークの統治機関は何ですか？ 私たちの州下院みたいな。

Schwartz先生：つまり質問は、チェサピークの統治機関は何か、ですね？ 私たちがずっと話し合ってきたニューイングランドの清教徒の時代は、実に明確です。宗教にもとづく、教会を中心とする統治機関、町民会議です。しかし、チェサピークでは、州下院はエリート層からなる統治機関の典型のようなものです。州下院議員になった人の多くは、小規模な地主を遠ざける傾向がありました。当然、使用人や奴隷などに参政権はありませんでした。調べてみるのが一番早いでしょう。いいですね。

もう一度ボードを見てください。今、私たちは作業①と②をやりましたから、③の資料文書を読んで解釈する番ですね。だれがどれを読むことにするかは後にして、まずは資料一式を全体的に確認してみましょ。資料を確認しながら、どのグループが何をするか指示します。いいですね。

資料文書A（スライド4），これはグループ1が読解します。ジョン・ウインスロップの「キリスト教徒の慈愛のひな型」です。抜粋ですが、大変有名です。ウインスロップはニューイングランドの清教徒です。グループ1はこれを引き受けてください。

グループ2は **資料文書BとC（スライド5）**，二つの乗船客のリストです。片方はニューイングランド発の船で、もう一つはチェサピークへ向かう船のものです。読み物のような姿をしていないのはわかりませんが、読んでください。

グループ3は **資料文書D（スライド6）**，マサチューセッツのニューイングランドで書かれた契約書を検討します。どのグループも、必ず日付に注意することが大切です。この資料文書Dが1630年代に書かれているのに対して、グループ4の **資料文書E（スライド7）**は、1676年に書かれた「コネチカットにおける賃金および価格規制」です。ですから、初期の資料の多くはニューイングランドに関するものです。

グループ5は **資料文書F（スライド8）**，すでに何らかの形で見たものについて検討します。「バージニアの歴史」から、ジョン・スミス船長がバージニアでの体験について書いています。

グループ6は、**資料文書G（スライド9）**を検討します。これはウィリアム・バークリーです。この間、彼について話したばかりですね。彼はオランダや別の植民地保有国による圧力からバージニアを守るのに苦労しました。

そして最後にグループ7は、**資料文書H（スライド10）**をやります。これは、ナサニエル・ベーコンと彼の言い分、なぜベーコンの反乱が得策であるかの根拠です。一人の人が取り組む資料は、それぞれ一つだけで

す。

資料を読む前に、次のような視点について考えてほしいと思います。いま、表の片方の面の内容についてやりました。今度は表を反対側にひっくり返してください。例えば、君たちはどの資料を担当するのかな？ このグループはEを担当しますので、このようにします。

1. 資料を読む、2. 基本的な情報や内容など、資料に書かれていることを把握する、3. そもそも君たちが調べた背景情報はこの資料とどう関連しているのか？ ニューイングランドはどんな風で、今読んだことにどう対応しているのか？ チェサピークはどんな風で、今読んだことにどう対応しているのか？ 背景情報と君たちが検討している一次資料との関係は何か？ そして、それを表に書いてください。

各グループがこの作業を行って、それぞれの資料についてのエキスパートになるのです。その資料だけです。次に、8分経ったら私が移動の合図をしますから、別のもう7人の人と大きなグループを作り、8種類の資料についてそれぞれの人が話します。最初の数週間の間に、同じような疑問についてすでに話しました。**スライド11** 1)それは何に関する資料か？ 2)その出所はどこか？ それはいつ書かれたか？ 日付…について考えてください。その日付について知っていることは何か。3)ほかのどんな情報が役に立つか？ これはとても重要です。4)それは信頼できる資料なのか、疑わしい資料か？ 真実の場合もあるし、そうでない場合もあります。中には役に立たない資料文書もあるし、役に立つものもあります。そして、5)学習課題である「ニューイングランドとチェサピークがなぜ異なってくるのか」とどんな関連があるか？

8分間あります。最初の2分間は、黙って資料を読みます。そして私が「はい、話し合って」と言います。質問がある人はいるかな？ では始めよう。まず黙って読む。

【グループでの話し合い】

Schwartz先生：はい、皆さん、ちょっと顔を上げてください。じゃあ次は移動ですね。そしてまた表に戻っては、ほかの人から情報をもらってください。

スライド12 さて、どうするのか説明します。君たちは7人のグループになります。ささやき声でなく、大きな声を出す必要があります。それは、情報を伝えなければならないし、グループがそれぞれ話し合っ



引き出した情報を受け取る責任があるからです。今日のこの時間はそのためにあるし、その情報を使うのもまた今です。資料文書ごとに最大2分までです。

スライド13 そして、プリントを見ると、「ニューイングランドとチェサピークはどのように異なっていましたか？」と書いてあります。それらの違いに当たる代表的な事柄を三つ挙げてください。次に「それらの違いは何が原因ですか？」 ここが肝心で楽しみな所、君たち自身の意見なのです。ですからこの用紙は、全部書き終わると、実は君たちの議論の骨組になるのです。

では、四つの大きなグループ。1はここに円を作ってください。2はここに円を作ってください。3はここへ来て円に。4はここ。イスを何個か周りに引き寄せればいいでしょう。1, 2, 3, 4, …いいですか、自分の番号を覚えてください。1, 2, 3, 4, 1, 2, 3, 4, …。

はいどうぞ。円になるよう考えて。1分で移動を。

こっちを見て。はい、結構。

さて、君たちは新しいグループにいます。資料文書Aから始めます。資料文書Aの人、君たちは自分たちの資料に関する情報を伝えます。何に関するものか、どんな背景、どの地域から出たものか、そしてどんな背景が重要になるか。最後に言うておきますが、資料を全部読まなくていいです。実際には今晚全部読むことになります。だから君たちに資料一式を渡してあるのです。でも、その話し合いから今やれることを導き出してく

ださい。

はい、デジタル時計に20分と表示されています。たぶん、授業の終わりに引っかかりますが大丈夫。明日、続きの時間をとります。私が「さあ、資料BとCに取り掛かってください」というふうに合図を出します。わからないことがあったら手を上げてください。

【グループでの話し合い】

Schwartz先生：はい、皆さんは今、文書資料Dをやっていることですよ。

【グループでの話し合い】

Schwartz先生：はい、今頃はできれば資料文書Gをやっていてほしいね。

【グループでの話し合い】

Schwartz先生：はい、皆さん。邪魔して悪いけど、ここまでにしましょう。君たちは、非常によく取り組みました。私が思ったよりずっとずっとできています。明日、残りの作業をするのに7分ぐらい取ります。

明日の授業の終わりに、今週のお楽しみがあることを忘れないように。小テストです。2～3のテストを行います。待ち遠しいですね。君たちもわくわくするよね。問題は全部で15問です。リーディングは木曜に向けて今晚、明日、やらなければなりません。自分で決めてください。次の時間の人が入って来る前に、机をまっすぐにしてください。

2. 授業用スライド資料

スライド1

植民地地域 DBQ

- 1) 質問を読んでください。
- 2) 質問の内容について意見を出し合ってください。
- 3) 資料文書を読んでください。
- 4) その資料文書と質問の内容にはどんなつながりがありますか？
- 5) 質問に関する意見をまとめてください。
- 6) 資料文書をグループ分類してください。

Colonial Region DBQ

- 1.) Read Question
- 2.) Brainstorm Content
- 3.) Read Document
- 4.) How do the documents and content relate?
- 5.) Create a Thesis for the question
- 6.) Group the Documents

スライド2

	ニューイングランド植民地	チェサピーク植民地
移住の目的や目標		
宗教：会派と影響力		
移住した人の種類		
植民地のタイプ，その影響力や統治機構		
植民地における意見の相違：階級闘争と宗教的問題		
地域の地形		

	New England Colonies	Chesapeake Colonies
Goals/Purpose of Settlement		
Religion: Groups and Impact		
Type of people who settled		
Type of Settlement its Impact/Government		
Dissent in Colonies: Class Conflict and religious issues		
Geography of the region		

スライド3

植民地地域 DBQ

ニューイングランドおよびチェサピーク地域には、どちらも英国から来た人が主に定住しましたが、1700年までに明らかに異なる社会へと変貌しました。この発展の違いはなぜ起きたのでしょうか？

Colonial Regions DBQ:

Although New England and the Chesapeake region were both settled largely by people of English origin; by 1700 the regions had evolved into distinct societies. WHY DID THIS DIFFERENCE IN DEVELOPMENT OCCUR?

スライド4 資料文書 A (グループ 1)

出所：「キリスト教徒の慈愛のひな型（丘の上の町）」ジョン・ウィンスロップ
(1630年、大西洋上においてアルベラ号乗船中に記された)

全能の神はそのもっとも聖なる思慮深い神のご意志において、人間の状態に関してその成り行きを定めた。いつの世でも、ある者は富み、ある者は貧しく、ある者は高く優れた力と品格を有し、もう一方ではみずばらしく支配される者がいる…。(しかし、)我々はこの事業のために一人の人間のように団結しなければならない。我々は兄弟の愛をもって互いに接し、困窮している他者に与えるために自らぜいたくを慎まなければならない。我々はあらゆる穏やかさ、従順さ、忍耐、そして寛容さをもって共に親しい友人との交流を保たねばならない。我々は、事業における我々の使命と共同体、つまり同じ組織のメンバーとしての共同体を常に目の前に掲げながら、お互いに楽しみ合い、他者の状況を自分のものと感じ、共に喜び、共に悲しみ、共に苦勞して苦難の道を歩まなければならない。そうすれば、必ずや平和の絆の中で気持ちを一つにすることができよう…。我々は丘の上の町になるのだと考えなければならない。あらゆる人々の目が我々に注がれているので、我々が行っているこの事業において神と偽りの取引を行い、神が示す救いを取り消させることになれば、我々は世界中の語り草や物笑いの種になるだろう。我々は敵の口を開いて神の御業を悪く言わせ、…神の多くの善良な従者の名誉を傷つけ、祈りの言葉が我々を呪う言葉に変わることになるだろう。

Group 1 - DOCUMENT A

Document A

Source: John Winthrop, *A Model of Christian Charity* (Written on board the Arbella on the Atlantic Ocean, 1630)

God Almighty in his most holy and wise providence hath so disposed of the condition of mankind, [that] in all times some must be rich, some poor, some high and eminent in power and dignity, other mean and in subjection. . . . [Yet] we must be knit together in this work as one man. We must entertain each other in brotherly affection, we must be willing to abridge ourselves of our superfluities, for the supply of others' necessities. We must uphold a familiar commerce together in all meekness, gentleness, patience, and liberality. We must delight in each other, make others' conditions our own, rejoice together, mourn together, labor and suffer together, always having before our eyes our commission and community in the work, our community as members of the same body. So shall we keep the unity of the spirit in the bond of peace. . . . We must consider that we shall be as a city upon a hill. The eyes of all people are upon us, so that if we shall deal falsely with our God in this work we have undertaken, and so cause him to withdraw his present help from us, we shall be made a story and a by-word through the world. We shall open the mouths of enemies to speak evil of the ways of God. . . . shall shame the faces of many of God's worthy servants, and cause their prayers to be turned into curses upon us.

資料文書 B

出所：ニューイングランドに向かう移住者の乗船名簿 1635年3月20日，ウエーマス
(エドワード・ソローフグッドの副吏員，ジョン・ポーター)

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. ジョセフ・ハル サマセット出身，牧師，40歳 | 26. ウィリアム・フィーバー 使用人，20歳 |
| 2. アグネス・ハル 妻，25歳 | 27. ジョン・ウィットマーク 39歳 |
| 3. ジョアン・ハル 娘，15歳 | 28. アリス・ウィットマーク 妻，35歳 |
| 4. ジョセフ・ハル 息子，13歳 | 29. ジェームス・ウィットマーク 息子5歳 |
| 5. トリストラム 息子，11歳 | 30. ジェーン 娘，7歳 |
| 6. エリザベス・ハル 娘，7歳 | 30. オンセフ・ウィットマーク 息子，5歳 |
| 7. テンペランス 娘，9歳 | 31. リーチ・ウィットマーク 息子，2歳 |
| 8. グリッセル・ハル 娘，5歳 | ・・・ |
| 9. ドロシー・ハル 娘3歳 | 74. ロバート・ラベル 農夫，40歳 |
| 10. ジュディス・フレンチ 使用人，20歳 | 75. エリザベス・ラベル 妻，35歳 |
| 11. ジョン・ウッド 使用人，20歳 | 76. ザキアス・ラベル 息子，15歳 |
| 12. ロバート・ダビン 使用人，28歳 | 77. アン・ラベル 娘，16歳 |
| 13. ムサチール・バーナード
バットクーム出身，サマセット州の洋服店 | 78. ジョン・ラベル 息子，8歳 |
| 14. マリー・バーナード 妻，28歳 | 79. エリン 娘，1歳 |
| 15. ジョン・バーナード 息子，3歳 | 80. ジェームス 息子，1歳 |
| 16. ナサニエル 息子，1歳 | 81. ジョセフ・チックキン 使用人，16歳 |
| ・・・ | 82. アリス・キンナム 22歳 |
| 21. ティモシー・テイバー
バットクームのサマレットの仕立屋，35歳 | 83. エンジェル・ホラード 21歳 |
| 22. ジェーン・テイバー 妻，35歳 | 84. キャサリン 妻，22歳 |
| 23. ジェーン・テイバー 娘，10歳 | 85. ジョージ・ランド 使用人，22歳 |
| 24. アン・テイバー 娘，8歳 | 86. サラ・ランド 血縁者，18歳 |
| 25. サラ・テイバー 娘，5歳 | ・・・ |
| | 103. ジョン・ホーブル 農夫，13歳 |
| | 104. ロバート・ハスト 農夫，40歳… |

資料文書 C

出所：バージニアへ向かう移住者の乗船名簿 1635年7月末日

以下に記された者は，英国の教会規律を遵奉することをグレイブゼンドの牧師が確認し，また忠誠と至上性の誓いを立てたことにより，指導者ヒュー・ウェストンに従い，マーチャンツ・ホープ号に乗船してバージニアへ移送されるものである。

エドワード・タワーズ	26歳	アリン・キング	19歳
ヘンリー・ウッドマン	22	ロウランド・サッドラー	19
リチャード・シームズ	26	ジョセフ・フィリップス	28
ビンセント・ワッター	17	ダニエル・エンディック	16
ジェームス・ウィゼッド	14	ジョセフ・チョーク	25
ジョナス・ワッツ	21	ジョセフ・ピナール	20
ピーター・ロー	22	エドワード・スミス	20
ジョージ・ブロッカー	17	ジョセフ・ローリッジ	19
ヘンリー・エレス	26	ウィリアム・ウェスリー	40
ジョセフ・デニス	22	ジョセフ・スミス	18
トーマス・スウェイン	23	ジョセフ・サンダース	22

チャールズ・リンズデン	27
ジョセフ・エクストン	17
ウィリアム・ラック	14
ジョセフ・トーマス	19
ジョセフ・アーチャー	21
リチャード・ウィリアムス	25
フランシス・ハットン	20
サビル・ガスコイン	29
リチャード・バッフェル	29
リチャード・ジョーンズ	26
トーマス・ウィネス	30
ハンフリー・ウィリアムス	22
エドワード・ロバーツ	20
マーチン・アトキンソン	32
エドワード・アトキンソン	28
ウィリアム・エドワーズ	30
ネイサン・ブラドック	31
ジェフリー・ガリッシュ	23
ヘンリー・キャレル	16
トーマス・タイル	24
ガマリエル・ホワイト	24
リチャード・マークス	19
トーマス・クレバー	16
ジョセフ・キッチン	16
エドモンド・エドワーズ	20
ルイス・マイルズ	19
ジョセフ・ケネディ	20
サム・ジャクソン	24

トーマス・バートチャード	16
トーマス・ドッジャーリッジ	19
リチャード・ウィリアムス	18
ジョセフ・バランス	19
ウィリアム・ボールディン	21
ウィリアム・ペン	26
ジョセフ・ゲーリー	24
ヘンリー・ベイリー	18
リチャード・アンダーソン	50
ロバート・ケラム	51
リチャード・ファンショウ	22
トーマス・ブラッドフォード	40
ウィリアム・スペンサー	16
マーマデューク・エラ	22

女性

アン・スウェイン	22
エリザベス・コート	22
キャサンリン・ウィルソン	23
モードリン・ロイド	24
メイベル・ブッシュャー	14
アニス・ホプキンス	24
アン・メイソン	24
ブリゲット・クロンプ	18
マリー・ホークス	19
エリン・ホークス	18

Group 2: Document B and C

Document B

Source: Ship's List of Emigrants Bound for New England
John Porter, Deputy Clerk to Edward Thoroughgood

Weymouth, the 20th of March, 1635

1. Joseph Hull, of Somerset, a minister, aged 40 years
2. Agnes Hull, his wife, aged 25 years
3. Joan Hull, his daughter, aged 15 years
4. Joseph Hull, his son, aged 13 years
5. Tristram, his son, aged 11 years
6. Elizabeth Hull, his daughter, aged 7 years
7. Temperance, his daughter, aged 9 years
8. Grissel Hull, his daughter, aged 5 years
9. Dorothy Hull, his daughter, aged 3 years
10. Judith French, his servant, aged 20 years
11. John Wood, his servant, aged 20 years
12. Robert Dabyn, his servant, aged 28 years
13. Musachuell Bernard, of Batcombe, clothier in the county of Somerset
14. Mary Bernard, his wife, aged 28 years
15. John Bernard, his son, aged 3 years
16. Nathaniel, his son, aged 1 year

* * *

21. Timothy Tabor, in Somerset of Batcombe, tailor, aged 35 years
22. Jane Tabor, his wife, aged 35 years
23. Jane Tabor, his daughter, aged 10 years
24. Anne Tabor, his daughter, aged 8 years
25. Sarah Tabor, his daughter, aged 5 years
26. William Fever, his servant, aged 20 years
27. John Whitmarke, aged 39 years
28. Alice Whitmarke, his wife, aged 35 years
29. James Whitmarke, his son, aged 5 years
30. Jane, his daughter, aged 7 years
31. Onseph Whitmarke, his son, aged 5 years
32. Rich. Whitmarke, his son, aged 2 years

* * *

74. Robert Lovell, husbandman, aged 40 years
75. Elizabeth Lovell, his wife, aged 35 years
76. Zachens Lovell, his son, aged 15 years
77. Anne Lovell, his daughter, aged 16 years
78. John Lovell, his son, aged 8 years
79. Ellyn, his daughter, aged 1 year
80. James, his son, aged 1 year
81. Joseph Chackin, his servant, 16 years
82. Alice Kinham, aged 22 years
83. Angell Hollard, aged 21 years
84. Katheryn, his wife, 22 years
85. George Land, his servant, 22 years
86. Sarah Land, his kinswoman, 18 years

* * *

103. John Hoble, husbandman, 13
104. Robert Huste, husbandman, 40 . . .

Document C

Source: Ship's List of Emigrants Bound for Virginia
Ultimo July, 1635

These underwritten names are to be transported to Virginia, embarked in the Merchant's Hope, Hugh Weston, Master, per examination by the minister of Gravesend touching their conformity to the Church discipline of England, and have taken the oaths of allegiance and supremacy:

Edward Towers	26	Allin King	19
Henry Woodman	22	Rowland Sadler	19
Richard Seems	26	Jo Phillips	28
Vincent Whutter	17	Daniel Erdick	16
Jones Whithead	14	Jo Chalk	25
Jorus Watts	21	Jo Vynall	20
Peter Ioe	22	Edward Smith	20
Geo. Bucker	17	Jo Rowdige	19
Henry Feles	26	Wm. Westlie	40
Jo Dennis	22	Jo Smith	18
The Swayne	23	Jo Saunders	22
Charles Rensden	27	The. Rarschard	16
Jo Featon	17	The. Dodderidge	19
Wm. Luck	14	Richard Williams	18
Jo Thomas	19	Jo Ballance	19
Jo Archer	21	Wm. Baldin	21
Richard Williams	25	Wm. Pen	26
Francis Hutton	20	Jo Gene	24
Savill Gascoyne	29	Henry Baylie	18
Rich. Bultell	29	Rich. Anderson	50
Rich. Jones	26	Robert Kellum	51
The Wynnes	30	Richard Fanshaw	22
Humphreys Williams	22	The. Bradford	40
Edward Roberts	20	Wm. Spencer	16
Martin Atkinson	32	Marmaduke Ella	22
Edward Atkinson	28		
Wm. Edwards	30	Women	
Nathan Braddock	31	Ann Swayne	22
Ieffrey Gurrish	23	Eliz. Cote	22
Henry Carrell	16	Ann Rice	23
The Tyle	24	Kat Wilson	23
Garnald White	24	Maudlin Lloyd	24
Richard Marks	19	Mabell Busher	14
The Clever	16	Annis Hopkins	24
Jo Kitchin	16	Ann Mason	24
Edmond Edwards	20	Bridget Crompe	18
Leves Miles	19	Mary Hawkes	19
Jo Kennedy	20	Ellin Hawkes	18
Sam Jackson	21		

スライド6 資料文書 D (グループ 3)

出所：契約書，1636年，マサチューセッツ，スプリングフィールド
以下に名前が記された我々は，神の導きにより入植地を拓くことに共に取り組み，…我々および我々の継承者によって守られ，かつ継続されるいくつかの協定条項や命令に互いに合意するものである。

1. 我々は神の恵みにより，できるだけ早く，ふさわしい時期に，信心深く誠実な牧師を得る予定であり，我々はその牧師と，あらゆるキリストの道をたどるといふ教会の契約を結ぶつもりである。
2. 我々は，我々の町が 40 家族で構成されるものとし，… 富める者も貧しい者も含まれる。
3. また，すべての住人は，我々がそれぞれの地位や財産に [適切] と思うような，ふさわしい大きさの家屋敷を持つものとし…
5. そしてすべての人に牧草地や耕作地が割り当てられるものとし…

Group 3: Document D

Document D

Source: Articles of Agreement, Springfield, Massachusetts, 1636

We whose names are underwritten, being by God's providence engaged together to make a plantation... do mutually agree to certain articles and orders to be observed and kept by us and by our successors. . . .

1. We intend by God's grace, as soon as we can, with all convenient speed, to procure some Godly and faithful minister with whom we purpose to join in church covenant to walk in all the ways of Christ.
2. We intend that our town shall be composed of forty families, . . . rich and poor.
3. That every inhabitant shall have a convenient proportion for a house lot, as we shall see [fit] for everyone's quality and estate. . . .
5. That everyone shall have a share of the meadow or planting ground. . . .

スライド7 資料文書 E (グループ 4)

出所：1676年，コネチカットにおける賃金および物価規制

我々の間に横暴さを嘆く大きな声が聞こえる一方で，またそれは主に職人と商人を指し示しており，支払いに関する基準なしには規制が難しいものであり，それゆえ，… [物価と賃金] は毎年各州議会で正式に定める…よう命令する。この命令に対する [すべての] 不履行は横暴さの度合いに応じて罰せられ…。この議会は…その間にすべての商人と職人が彼らの使命に関する宗教的目標をよく考えるよう勧め，それは彼らが技術や取引で無理なく神と隣人に尽くすことができるぐらいの適度な利益を受け取ることであり，彼らが自分を急激にまた法外に金持ちにすることではない (物価や賃金を強要して隣人を困窮させる…その横暴さの罪を批判する叫びの中で生きることなく，それを回避する)。

Group 4: Document E

Document E

Source: Wage and Price Regulations in Connecticut, 1676

Whereas a great cry of oppression is heard among us, and that principally pointed at workmen and traders, which is hard to regulate without a standard for pay, it is therefore ordered that . . . [prices and wages] be duly set at each of our General Courts annually. . . . [A]ll breaches of this order to be punished proportionable to the value of the oppression. . . . This court . . . in the interim recommends [that] all tradesmen and laborers consider the religious end of their callings, which is that receiving such moderate profit as may enable them to serve God and their neighbors with their arts and trades comfortably, they do not enrich themselves suddenly and inordinately (by oppressing prices and wages to the impoverishing [of] their neighbors. . . . live in the practice of that crying sin of oppression, but avoid it.

出所：「バージニアの歴史」ジョン・スミス船長，1624年

その [大きな船] が出発したとき，…お金，余分な衣類，支払手形が発行できるような信用，金の指輪，毛皮，またそういった品々を持つ人はいつでも [食料の購入] が自由にできた。[残りの人は，辛抱強く] 卑劣な指揮官に [従い]，食料を15倍の値段で買い，…けれども我々は，派閥争いを好む人や扇動的な人々の批判を招かないよう不平を言わなかったが飢えていた，…。我々の通常の [食料] とは粗挽き粉と水だったので，これは…我々の窮乏はほとんど解消されず，身を切るような厳しい寒さの極みのために，…我々の半数以上が亡くなった。

[我々の中で] もっともひどかったのは [金を求めた人たち] であり，彼らの金への期待がすべての男たちを報酬への希望で理性を失わせていた。そこには会話などなく…金を掘って，洗い，磨き，積み込む…。スミスは，我々がぎりぎりの生活を [送っていた] ことを知り，翌年の食料を確保できるようにするものを乗せたピンネース [小型船] を準備することにした。

[二人の議員]，ウィンフィールドとケンドールは，…水兵とその他の支持者で自分たちの勢力を強化し，ピンネースに乗ってその針路を変え，イギリスへ行こうとした。

スミスには彼が考え出した策略があった。彼が阻止しなければならなかった大きな問題は，彼が留め置かせた，または川に沈めさせたセーカー砲やマスケット弾の蓄えが入った引き出しであり，この行為がケンドール船長の命を危うくした。

こうした争いは極めて不愉快であり，忘れたほうがよかったと言う人もいるだろう。

Group 5: Document F

Document F

Source: Captain John Smith, *History of Virginia*, 1624

When the [large ship] departed, ... those of us that had money, spare clothes, credit to give bills of payment, gold rings, fur, or any such commodities, were ever welcome to [purchase supplies. The rest of us patiently obeyed our] vile commanders and [bought] our provisions at fifteen times the value. ... yet did not repine but fasted, lest we should incur the censure of [being] factious and seditious persons. ... Our ordinary [food] was but meal and water so that this ... little relieved our wants, whereby with the extremity of the bitter cold frost ... more than half of us died.

The worst [among us were the gold seekers who] with their golden promises made all men their slaves in hope of recompenses. There was no talk ... but dig gold, wash gold, refine gold, load gold. ... Smith, perceiving [we lived] from hand to mouth, caused the pinnace [small ship] to be provided with things fitting to get provision for the year following.

[Two councillors] Wingfield and Kendall, ... strengthened themselves with the sailors and other confederates [and planned to go] aboard the pinnace to alter her course and to go for England.

Smith had the plot discovered to him. Much trouble he had to prevent it, till with store of saker and musket shot he forced them to stay or sink in the river; which action cost the life of Captain Kendall.

These brawls are so disgustful, as some will say, they were better forgotten.

出所：パークリー総督と，オランダの攻撃に対してバージニアを守れなかったことに関する彼の審議会，
1673年12月

我々はそれが我々の義務だと思った…我々のこの宣言の中で，全般的なこの国の真のありさまや状況を公表することが，そして我々の際立った…無力さ… [オランダによる] この侵略に際して戦争を [行う] …。そこで [我々は]，恐れながら総督閣下と尊敬すべき審議会に，バージニアは非常に多くの広い川が横切っており，それを守るために我々が抱えている信頼できる男たちが可能な範囲以上にかかり長い距離を守らねばならないことを考慮しに入れてくださるようお願いしたい。というのも，我々の念入りな計算により，川岸やすべての境界をインディアン [から] 守るために必要な解放軍の人数と同じぐらい多くの使用人（黒人を除いて）に背後を任せている…。[これは]，その土地や家族への危険をそのままにすることへの恐ろしい不安を彼らに与えるものではあるが，彼らは境界を守るために家々から集められた。また，[防衛に加わった解放軍の] 少なくとも三分の一は独身の解放民（自分の仕事ではほとんど生活していけない）または多

額の借金をしている男たちであり、…そして彼らに、敵が我々から搾取するかもしれないどんな小さな利益も我々は当然要求してもかまわない、…彼らと占領した国土を分け合うことによって彼らの生活条件を向上させようとして彼らに〔寝返るために〕…。

Group 6: Document G

Document G

Source: Governor Berkeley and His Council on Their Inability to Defend Virginia Against a Dutch Attack, December 1673

We thought it our duty . . . to set forth in this our Declaration, the true state and condition of this country in general and our particular . . . disabilit[y] to . . . [engage in] war at the time of this invasion [by the Dutch]. . . . [We] therefore do most humbly beseech your majesty and your most honorable council to consider that Virginia is intersected by so many vast rivers as makes more miles to defend than we have men of trust to defend them. For by our nearest computation we leave at our backs as many servants (besides Negroes) as there are freemen to defend the shores and all our frontiers [against] the Indians. . . . [This] gives men fearful apprehensions of the danger they leave their estates and families in, while they are drawn from their houses to defend the borders. Also at least one third [of the freemen available for defense] are single freemen (whose labor will hardly maintain them) or men much in debt. . . . [whom] we may reasonably expect upon any small advantage the enemy may gain upon us, . . . [to defect] to them in hopes of bettering their condition by sharing the plunder of the country with them.

スライド10 資料文書 H (グループ 7)

出所：1676年にバージニアのバークリー総督に対する反逆を正当化したベーコンの「声明」我々の心の中には、反逆や裏切り、あるいはどのような形であっても現在の安定した政府の転覆をもくろむような考えは爪の垢ほどもない…。さらに、我々の市民としての平穏で平和を好む振る舞いが反逆からはほど遠いと証明できるあらゆる地域のすべての人…。真実を明らかにし、偽りの罪の真の源を世界中に知らせよう…。明らかにしよう…権限をもつ男たちと、国の富の分配に関するその人たちの支配権に対する優遇が罪を犯した。彼らの所有地が突然増えたことに注目してみよう…彼らがこの国に来た最初のころに〔比べて〕。彼らが突然出世したことを考えてみよう。そしてまた、我々の安全と防衛ための公共事業なのか、商業の進

歩と拡大のための公共事業なのか、一般教養や科学は、我々の膨大な責任に対して形はどうあれふさわしいものなのかどうか考えてほしい。さあ、これらを共に検討し、どんなスポンジが市民の宝を吸い上げたのか、また、それが不当なひいきによって、またその者たちの不安定な富が市民の税金で埋め合わされ、支えられるよう策を弄してきた寄生虫によって密かに画策されてこなかったかどうか明らかにしよう。

Group 7: Document H

Document H

Source: Bacon's "Manifesto," justifying his rebellion against Virginia Governor Berkeley in 1676

We cannot in our hearts find one single spot of rebellion or treason or that we have in any manner aimed at subverting the settled government. . . . All people in all places where we have yet been can attest our civil, quiet, peaceable behavior far different from that of rebellion. . . . Let truth be bold and all the world know the real foundations of pretended guilt. . . . Let us trace . . . [the] men in authority and favor to whose hands the dispensation of the country[s] wealth has been committed. Let us observe the sudden rise of their estates . . . [compared] with the quality in which they first entered this country. Let us consider their sudden advancement. And let us also consider whether any public work for our safety and defense or for the advancement and propagation of trade, liberal arts or sciences is in any [way] adequate to our vast charge. Now let us compare these things together and see what sponges have sucked up the public treasure and whether it has not been privately contrived away by unworthy favorites and juggling parasites whose tottering fortunes have been repaired and supported at the public charge.

END OF 1993 DBQ DOCUMENTS

スライド11

グループ資料文書問題：以下の質問について各グループで話し合ってください。表を使って話し合いを記録してください。(グループの制限時間 8分)

- その資料文書は何について書かれていましたか？
- その資料文書の出所はどこですか？ それ書かれたのはいつですか？
- ほかにどんな情報があればその資料文書を理解するのに役立ちますか？
- その資料文書の信頼性について何らかの懸念がありますか？
- その資料文書は質問とどんな関連がありますか？

その質問に答えるためにそれが使えると思いますか？

Group Document Questions: Discuss the following questions with your group. Use your chart to make notes of your discussion. (Total Group Time 8 Minutes)

- What was the document about?
- Where was it from? When was it written?
- What outside information would be helpful to understand this document?
- Do we have any doubts about the reliability of this document?
- How does it relate to the question? How do you think you could use it to answer this question?

スライド12

大きなグループでのタスク

- 1) 自分の資料文書に関する専門的知識と、それが質問に答えるためにどう役立つか伝えてください (2分ずつ)。
- 2) ニューイングランドとチェサピークがどう異なっていたか、グループで考えを出し合ってください (3分)。
- 3) それらの違いは何が原因だったかについて、グループで考えを出し合ってください (3分)。

(グループの制限時間 20分)

ニューイングランドおよびチェサピーク地域には、どちらも主として英国から来た人が定住しましたが、1700年までに明らかに異なる社会へと変貌しました。この発展の違いはなぜ起きたのでしょうか？

Large Group Tasks:

1.) Share your expert knowledge about your document and how it helps to answer the question (2 minutes each)

2.) As the group develop ideas about how NE and the Chesapeake were different (3 minutes.)

3.) As the group develop ideas about what caused these differences. (3 minutes.)

Total Group Time 20 minutes

Although New England and the Chesapeake region were both settled largely by people of English origin; by 1700 the regions had evolved into distinct societies. WHY DID THIS DIFFERENCE IN DEVELOPMENT OCCUR?

スライド13

ニューイングランドとチェサピークはどのように異なっていましたか？

- 1.
- 2.
- 3.

How were NE and the Chesapeake different??

What caused these differences?

それらの違いは何が原因ですか？

- 1.
- 2.
- 3.

3. 授業に関する評価規準

基本コア	点数	発展コア	点数
1. 基準を満たした分析的意見である 基準を満たした意見である	2 (1)	1～7点の基本コアをさらに増やす。生徒が発展コア領域で得点するには基本コア領域で7点獲得しなければならない。0～2	
2. 資料文書をすべて活用している	1	例：	
3. 資料文書から得た適切な証拠で意見の裏付けを行っている	1	・明確で分析的かつ総合的な意見を持っている	
4. その他の適切な情報で文書の裏付けを行っている	1	・証拠として説得力あるやり方で資料文書を活用している	
5. 作文に引用した資料文書の基本的意味を理解している（1文書は解釈を間違えてもよい）	1	・資料文書に関して、丁寧で洞察力に富んだ分析をしている	
6. DBQ問題に応じて資料文書を一通り、二通りまたは三通りに分類して分析する		・しっかりした他の情報で裏付けを行っている	
		・分類、比較、統合などの追加的方法で資料文書を分析している	
		・関連がある「その他の」歴史的情報を取り入れている	
小計	7	小計	2

合計 9

BASIC CORE		EXPANDED CORE	
Points		Points	
1. Has an acceptable analytical thesis	2	Expands beyond basic core of 1-7 points. A student must earn 7 points in the basic core area before earning points in the expanded core area.	0-2
Has an acceptable thesis	(1)	Examples:	
2. Uses all, of the documents	1	• Has a clear, analytical, and comprehensive thesis.	
3. Supports thesis with appropriate evidence from documents	1	• Uses documents persuasively as evidence.	
4. Supports documents with appropriate outside information	1	• Shows careful and insightful analysis of the documents.	
5. Understands the basic meaning of documents cited in the essay. (May misinterpret one document)	1	• Supports with substantial outside information	
6. Analyzes documents by grouping them in one or two or three ways, depending on the DBQ question	1	• Analyzes the documents in additional ways—groupings, comparisons, syntheses.	
		• Brings in relevant “outside” historical content.	
Subtotal	7	Subtotal	2

TOTAL 9

4. 授業分析

1600年前後から、国王の抑圧を受けたイギリスの新教徒たちが、北米各地に移住していった。中でも、ニューイングランドに上陸したメイフラワー号はよく知られている。こうした新大陸の植民地が次第に発展をとげ、やがて国家としての独立を勝ち取ることになる。ところで、例えばこのニューイングランド植民地のもつ性格を、同じ北アメリカの他の植民地と対比する発想の歴史授業は、日本ではあまり見ない。このことを単元規模の追究課題として掲げているところが、この授業の妙味であり教材開発上の卓見だと言えよう。

では、ニューイングランドとチェサピークなど他地域の植民地とは、その発展の仕方が実際上どのように異なっていたのだろうか。この授業では生徒に、その違いを少なくとも3点あげ、さらにその違いが生まれた背景事情をそれぞれに考察し意見として述べるよう求めている。この学習課題を解明することは、すなわちアメリカ合衆国がどのような性質の植民地を基盤にして成立した国家なのか、その存立条件を明らかにすることになる。歴史学習として大きな意義のある教材なのである。そしてそのために必要な諸情報は、単元初めの2時間ほどをかけてすでに調べ出してあるという。

概して、チェサピークの入植者らが、金鉱の発見や煙草の栽培など一時的な金儲けを目当てにした移住者が多かったのに対して、宗教上の理由で故国を離れたニューイングランドの入植者たちは、もとより新大陸に永住する覚悟を決めた人々であった。授業中のスライド5（資料文書BとC）の乗船名簿上の性別や年齢構成によく表れているが、ニューイングランドへは家族単位での移住者が多かった。それゆえ、人口は着実に増えて17世紀中頃には2万人規模になり、その中心地ボストンは北米第1の都市に成長した。道路や学校、植民地議会など永住に必要な施設や機構が整って（1636年にはハーバード大学を創設）、確かなコミュニティが営まれた。病気と縁の薄い気候風土にも助けられて、平均寿命は他の植民地よりもずっと長かったという。こうして、植民地を地盤とする「アメリカ人」が育っていくことになる。

これに対してチェサピークへの入植者は、同じ乗船名簿にあるとおおり、20代前後の男性が圧倒的に多かった。煙草の栽培と輸出でひと儲けしようとする、短期見込みの移住者たちであった。宗教的にはイギリス国教会系の者が多く、いわば「新大陸に住むイギリス人」であった。その有力都市の一つジェームズタウンは、一帯のプランテーションで栽培されるヨーロッパ向け煙草の積み出し港という機能が強く、同じく17世紀中頃になっても数十の家が建ち並ぶという状況の街であった。道路や学校など生活インフラの整備は十分に進まず、ニューイングランドのような生活拠点や地域組織としての発展の基盤がなかなか築けずにいたのである。

授業の主たる学習課題「ニューイングランドとチェサピークはどのように異なっていたか？」に対しては、上記のような諸事情の中から三つを選んで記述することになる。さしづめ、次のような3項目である。

1. 信者の多かったキリスト教派の違い
2. 移住者たちの性別や年齢構成の違い
3. 労働や生活に対して抱いた期待の違い

さらなる課題「それらの違いは何が原因か？」については、まさに生徒それぞれの分析視覚が表れるところだが、基本的には授業中の「チェサピークの人の目的はお金に関わること、それが彼らの関心事です」という教師の発言（前時までの調査情報の確認）に表れているように、仕事目当ての一時的な移住か、宗教的な事情を負った永住かという点に言及することになる。

最後に、この授業の指導技術として優れている点を、いくつかあげておこう。

- ① 事前に必要な情報を十分に調べて、追究活動に活用させている点
- ② 多大な情報の処理や吸収を、ジグソー法などを用いて効率よくこなそうとしている点
- ③ ジグソー法など初めて行う学習の進め方を、全員が理解できるよう時間をかけて丁寧に指導している点

5. 学校情報

ウォルター・ジョンソン高等学校は、1956年創立の、米国メリーランド州のベゼスタにあるモンゴメリー郡公立高校である。第9学年から第12学年までが在学し、生徒総数は約2,100人。校名は、1910～20年代に活躍したワシントン・セネターズの名投手でベゼ



スタの町に居住した、ウォルター・ジョンソンにちなんでつけられた。



学校のマスコットは、山猫である。創立当初はスパルタ兵士だったが、1987年に近隣のチャールズ・ウッドワード高校と統合された際、そちらのマスコットだった山猫と同校のスクールカラーだった緑とが、生徒投票によって選ばれたという。

学校ホームページ : <http://www.montgomeryschoolsmd.org/schools/wjhs/>